

西別院 だより

報 恩 講 号



盆踊り(別院境内)

平成10年度親鸞聖人報恩講は10月12日(月)～16日(金)です。

本願寺小樽別院 報 恩 講	9月28日(月)	仏教婦人会	報恩講
	9月29日(火)	緑説教所	報恩講
	10月24日(土)～25日(日)	新光説教所	報恩講
	11月2日(月)～3日(火)	奥沢説教所	報恩講
	12月中	仏教壮年会	報恩講

10月12日(月)～17日(土)までの月忌詣りはお休みさせていただきます。

めぐみを喜ぶ報恩講

輪番 土原 世胄



孟蘭盆会が過ぎ早や報恩講の季節となり、あちこちの寺や家庭で報恩講法要がつとまり始めます。

親鸞聖人ご住生は弘長二年(一二六二年)十一月二十八日で、覚如上人が親鸞聖人の三十三回忌の時に初めて報恩講をつとめられたとのこと。又、秋のとり入れを終わり自然のめぐみに感謝するとう想いをこめて、とれたものでの食事を囲み聖人を偲び敬い、名号を称えての講会であります。

現代の日本では農業も大きく変化し、

機械化されて専業農家の方も少なくなり、食物は外国からの輸入に頼ることが多くなり、自然のめぐみに感謝する想いが少なくなってきたように思います。

しかし、どんなに時代や生活が変化しようとも秋になれば山々は色づき、そして冬仕度を始めます。すべてが大地に帰る季節、多くの恵みの中で一年を過ごさせていただいたと気付かせてくれます。

一年だけでなく、私の生涯があらゆる命の恵みの中にあることと、報恩講をつとめ、心静かに生かされていることを喜ぶたいものです。

お釈迦さまは「人生は苦なり」と見きわめ、そこから出発し解決の道をお教え下さいました。実際長い人生の中で体験する悲しみや苦しみは大変なものです。自分の都合によって善し悪しの判断をして、不満や愚痴が生まれ、一喜一憂しています。

親鸞聖人は、法に遇うとは弥陀の本願

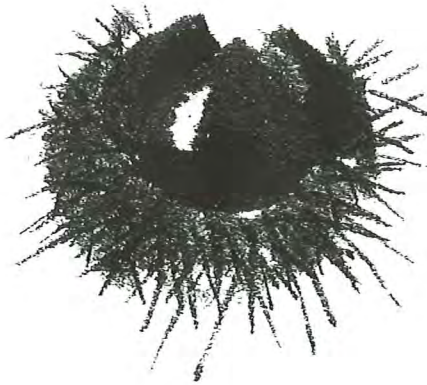
に遇うことであり、どの様な苦も悲しみも、如来の願心に生かされていることを教えて下さいました。

それは南無阿彌陀仏に導かれ、南無阿彌陀仏と生きぬく道であります。

悲しみ、苦しみにある時、お念仏申す生活がその問題を乗り越えていく道であります。この返しきれない恵みにお礼申し上げる集いが報恩講であります。

今、私は人生のどのあたりを歩いているのでしょうか。

合掌



別院盆踊り大賑わい

少し肌寒い中でしたが、雨も降らず8月8日(土)、9日(日)に別院境内において盆踊り大会が開催されました。普段はうす暗く感じるお寺の境内が、ご門徒の皆様よりご進納いただいた約300個の提灯によって明るく、照明され、賑やかな雰囲気にしてくれました。ご進納いただきましたご門徒の皆様には、紙面を借りてお礼を申し上げます。



8月8日 別院境内にて

みなさまも最初はどれだけの人が来てくれるのか不安でしたが、結果は両日にて約1000人の方々がこられました。大人も子供も輪になり楽しま

れ、日頃お寺にご縁の薄い方にも親しみやすくなったと大変好評でした。来年も続けて盆踊りを開催して行きたいと思えますので、今年来れなかった人も来年はぜひ別院盆踊りにいらして下さい。続いて、踊りを教えて下さった三浦先生に、今回の盆踊りを振り返って感想をいただきました。

盆踊り何年振りでしょうか

お寺の境内で踊ることなど初めてなので、少々緊張いたしました。

境内には櫓が立ち、紅白の幔幕が張り巡らされ、ご法名や、お名前・お店の名などが書かれた沢山の提灯に明かりが入って、とても綺麗に飾られ、盆踊りの雰囲気一杯です。私たちの亡父、兄の提灯もあって、その下で踊る供養を思うと感無量のものがありました。

阿弥陀様・親鸞様の見ていらっしゃる前で御輪番様をはじめ沢山の町内の方々、多くのお友達の皆さんと共に、楽しく和やかに大きな輪となって、賑やか



三浦 幸子 先生

に踊らしていただきました。特に小さなお子さんが。手拍子をとって、上手に踊っていらっしゃるのは、本当に愛らしく和やかさが一層増しました。見ておられた人々も、ついつい込まれるように輪に加わっておられました。

別院の浴衣も今まで着る機会がありませんでしたが、この度の盆踊りで初めて着させていただきました。皆さんもお召しになってとても良くお似合いました。踊る人も、見る人も本当に楽しく和やかに爽やかな夕べでした。どうぞお身体に気をつけられ。来年もお元気で踊りましょうネ。



報恩講について

親鸞聖人ご正忌報恩講が京都ご本山で一月九日から十六日につとまり、全国の寺々でつとまっています。私たちが報恩講をおつとめするのはお念仏のみ教えを喜び、味あわせていただくと共に、おすすめ下さった親鸞聖人のご遺徳のほどをしのぶためですが、浄土真宗の報恩講のはじまりは、親鸞聖人がお手紙の中に仰せのように、師法然上人のご命日に「法然上人の二十五日のお念仏」をおつとめになられたことが起こりとうけとれます。

しかしながら、今日の報恩講のように、親鸞聖人のご命日にちなんでおつとめするようになったのは、第三代・覚如上人のころからで、上人は永仁二年(一二九四)の冬、報恩謝徳のために「報恩講式」を作られ。御一代の絵図「御伝鈔」でご一代の物語をつづられ、現代もそれが礎となつて、御絵伝は余間に、また「御伝鈔」を拝読するのが報恩講のならわしとなつていきます。

年に一度、報恩講をご縁として、如来さまのお呼び声「南無阿弥陀仏」のおいわれを聴聞し、ご恩を想い、念仏のこころを新たにしたいものでもあります。

宗祖親鸞聖人報恩講法要日程表

日	時	法要・行事	布教(本堂)
12日(月)	9時 13時30分	○双葉高校参拝 ○初速夜(大師影供作法)	布教一席 杉谷師
13日(火)	6時30分 10時 13時30分 18時	○晨朝(正信偈草譜) ○日中(阿弥陀経作法) ○速夜(大師影供作法) ○初夜(般若讚) 御伝鈔上巻拝読 祖徳讃仰(三十分)	崇敬法中(一名) 布教一席 杉谷師 布教二席 杉谷師 布教一席 杉谷師
14日(水)	6時30分 10時 13時30分 18時	○晨朝(正信偈草譜) ○日中(無量寿経作法) ○速夜(奉讃大師作法) ○初夜(日没礼讃偈) 祖徳讃仰(三十分)	崇敬法中(一名) 布教一席 杉谷師
15日(木)	6時30分 10時 11時30分 13時30分 18時	○晨朝(正信偈草譜) ○日中(無量寿経作法) 三園合同参拝 ○速夜(五會念仏作法) 御俗姓拝読 ○初夜(初夜礼讃偈) 御伝鈔下巻拝読 祖徳讃仰(三十分)	布教一席 杉谷師 布教二席 杉谷師 崇敬法中(一名) 布教一席 杉谷師
16日(金)	6時30分 10時	○晨朝(正信偈行譜六首引)和讃「五十六億」 ○満日中(正信念仏偈作法) 代表焼香・御挨拶	布教一席 杉谷師 布教一席 杉谷師

期間 平成十年十月十二日より十六日まで
 布教 本願寺派布教使 杉谷恵昭師 富山県東砺波郡城端町・端泉寺住職

別院にて仏前結婚式!

去る七月十九日(日)、当別院職員の梶純信参勤(奥沢説教所主任)が御結婚されました。新婦となられたのは旧姓髭本ひろみさん。現在小樽幼稚園の先生です。結婚式は午後三時から小樽別院の本堂にて、土原世冑輪番が司婚者となり、おごそかにつとめられました。

結婚とは申すまでもなく、人生における新しい門出であります。仏事というとても暗いイメージをお持ちの方が多く様に見受けられますが、うわべの形にとらわれず、結婚という新しい門出こそ仏前(阿弥陀如来様の尊前)で誓いあうことは、大変意味のあるすばらしい事だと思えます。

これより、お二人が結婚という人生の新しい出発点を機縁として、益々お念仏をよりどころとする生活にいらしますことをご期待いたします。



別院本堂にて



<p>全葬儀 加 盟 店 全霊協</p> <p>小樽典礼(株)</p> <p>TEL 27-1801 稲穂 3-4-1</p>	<p>OA商品・リコピー・事務機・スチール家具</p> <p>株式会社 北光堂</p> <p>小樽市花園4-1-2 FAX25-1358 TEL.32-1322</p>	<p style="text-align: center;">NT</p> <p>毎度御引立を賜り、誠に有難うございます。 今後共よろしくお願い致します。</p> <p>総合燃料・長府ボイラー 官工事業 北海道許可登録703号</p> <p>高橋燃料商事(株)</p> <p>小樽市稲穂2丁目7番18号 ☎ 22-2188 FAX 33-7800</p>	<p>良い品安く、親身のご奉仕 奥沢十字街</p> <p>仏壇・仏具/御宮・神具一式</p> <p>伊藤新仏具店</p> <p>小樽市奥沢1丁目17-3 ☎(0134) 22-9055</p>
--	--	--	--

第十七回

晨朝百日参拝

達成者のお知らせ

今年も恒例となりました百日参拝が、終了致しました。

次の二十三人の方々が今日までに百日参拝を達成されましたのでお知らせします。

小樽別院では年間を通じて毎朝六時半よりお晨朝のおつとめが行われています。みな様お誘い合わせの上、多数ご参拝下さい。

「連続百日参拝達成者」7名

- 川崎 正吉 前田 幸一 佐野 喜造
- 荒木 美津子 前田 民子 加藤 福恵
- 花坂 一恵

「百日参拝達成者」16名

- 辻井 富士男 三浦 幸子 逢見 房江
- 宮本 みい 安田 芳枝 長谷川 ユキ
- 嶋田 アイ子 平位 京子 長谷部 和子
- 清水 和子 中條 国子 岩 船 寿
- 悦永 アサエ 高瀬 照子 鈴木 富美子
- 佐野 緑

晨朝百日参拝に参加して

佐野 喜造



たしております。

阿弥陀様の光り輝く本堂に於いて、ご輪番の調声のもと、高らかに正信偈を共に唱和し、そして、御文章を聴聞いたしますことは、新たな一日のスタートとして清々しい心境の日々であります。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人のみ教えをいただく家庭に生を享けたことを喜んでおります。南無阿弥陀佛のみ声に支えられ、お念佛にはげまされ、勇気づけられる身の幸せを感じる次第であります。

昨今ではとかく忙しさにとりまぎれて、佛道の敬虔さを味わう機会が失われつつあるように思います。喧騒の世にあればある程、静かに佛前に手を合わせ、頭を垂れる時間が必要なのではないでしょうか。

今後とも聞法に勤め生活のはげみとし、健康の許す限り、お晨朝のお参りを続けたく思っております。

尊い念佛の友の輪の広がりゆくことを祈念申し上げます。

合掌

汝 善人たらんと欲せば 先づ 自己の悪人たるを知れ